

《審議会報告・概要版》

総合計画審議会 第3回 第2部会

平成18年7月25日(火)午前9時
市役所本館6階 第3委員会室

(次第)

1 開会 (会長)

2 (1) 前回意見と事務局対応案について

(2) 追加審議

- 資料1に基づき、前回意見に対する事務局対応案を説明した。
- 資料2に基づき、第1・2部会で出された意見の概要を説明した。

(説明者：松田計画調整課長)

- 時代の潮流、基本構想及び基本計画について追加審議を行った。(主な意見は以下のとおり)

3 部会意見の取りまとめ

4 その他

- 次回(第4回)の予定について確認した。

審議内容 基本計画各論

日時 平成18年8月10日 午後1時30分から

会場 本館6階第3委員会室

以上。
終了：正午

(主な意見) 各部会での意見は別添意見一覧を参照ください。

時代の潮流

P5の「育てて～必要があります。」を「育てていく必要があります。」にしては？
宣伝がうまくない。

修正5．環境問題への関心の高まりについて

京都議定書よりも、平成5年の環境基本法の方から触れた方がよい。

京都議定書は、国レベルのものだが、環境は生活の質にかかわってくる。

環境について具体性がない。

新潟市では何をやるのか書き込んだほうがよい。

「環境にやさしい」は表現を変えたほうがよい。
タイトル「関心の高まり」では軽すぎる。顕在化しており、危機感を持った表現にしたほうがよい。
持続可能なまちづくりは、サステイナブルとは違う。

基本構想

発信力がない。
田園の意味は。日本海開港都市の開港は必要か。
日本海開港交流から日本海を削除しては。
まちとその周辺地域との公平性が必要。
小学校から農業教育を。(環境教育の始まりになる)
農業の大切さ教えないので、農業をしない。
横の連携で特徴ある農業づくりを。
大量生産、大量消費がいいとは限らない。
外に出さなくて地元で消費する考えもある。
拠点性の記載にインパクトがない。
日本海交流軸の相手をもっと広く。
他の部会で環日本海の記述を問題にしていたが、このままでよい。
安全、安心の順番についてはあとで検討する。
危機に対する対応が無い。(都市のスラム化等)
起きうるリスクの対策を構想に入れることで、安心な暮らしの方向を示せるのではないか。

基本計画総論

再就業教育,再雇用が人口の流出防止につながる。
(人口対策には)農村と都市の中間点(プラットホーム)の活性化,起業,地産地消等が必要
「土地利用の方針」は「まちづくり」のことではないのか。
他の計画でもこの位置に土地利用があり、すわりがいい。
P33 に「緑」の記述を。
旧市街地に緑が少ないことの記載を。
P35 に農業規範,他都市に無い農業や海外へ進出の記載を。
P35 に「日本の2大河川」の記述を。
都心周辺部に曽野木地区は入るか。
区の間で勝ち組負け組を作らない工夫を。
まちの周辺部には明るい展望を記載してほしい。
新交通システムの記載は。

その他

構想を施策にどう織り込むかが重要だ。
新潟市の自画像,地域力は?
計画のチェック機能は。